ダイコン新品種「春風太」の産地栽培事例と栽培のポイント

雪印種苗㈱　千葉研究農場

松　井　誠　二

1　はじめに

『春風太』は，トンネル春ダイコンの中で良品生産が難しいとされる早播きの作型（一般地，暖地の11～12月播き）に適応性を持つ特徴的な品種で，各産地へ意欲的な導入が始まっています。

今春，昨春の天候を千葉県を中心にふりかえってみますと，特に昨春は秋口の台風以降，雨が極端に少なく畑の乾燥状態が進み，11～12月播きでは播種時に散水が必要とされるほどでありました。さらに，寒気が平年より早く11月下旬には1回目が到来し，また，その後のクリスマス寒波により，ダイコンの初期生育にとっては低温乾燥状態という過酷な条件での栽培となりました。一方，今春は一転し，秋口の長雨により畑が過湿ぎみの状態で播種が行なわれ，暖冬と寒さの入り交じったなかで肥大し，収穫が行なわれました。

このように，トンネル早播きの作型は過酷な作型であり，また年次変動も大きく，作柄が安定しない時期でもあります。このような条件の中で，春風太を過去2か年栽培してきましたが，いずれの年も他品種より安定して良好な生育結果を得ることができ，『**寒さに強くて栽培しやすい品種である**』との評価を頂いております。

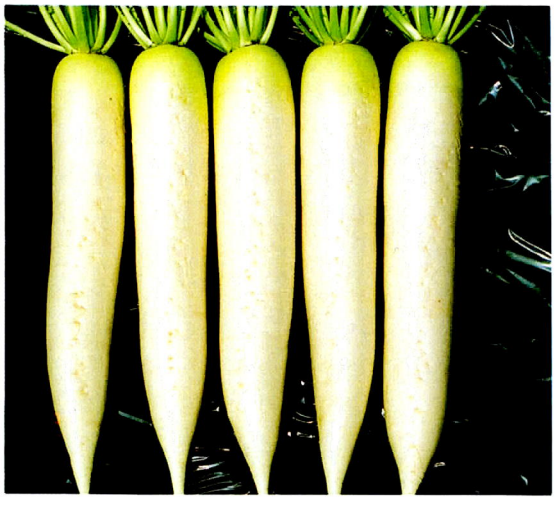

写真1　極晩抽性で寒さに強い新品種『春風太』

写真2　トンネルマルチ高畦栽培で収穫を待つ〔千葉県銚子市〕

今回は各産地での栽培事例を紹介し，より高品質なダイコンを収穫するための栽培のポイントをご紹介致します。

2　産地での『春風太』栽培事例

1)　千葉県銚子市A農家さん平成7，8年播種

銚子地域でも寒い地区に位置します。平成7年は10月末～12月上旬まで播種されました。他品種では岐根が目立ち，根形がくさび型になるものが多かったのに対し，春風太は根の長さ，形状とも良く，寒い年にかかわらず，揃い性が優れるとのことでした。

写真３　トンネルマルチ４条栽培。濃緑小葉に見事に揃う（中央，左ベット）〔千葉県袖ヶ浦市〕

また，前作として緑肥（**ヘイオーツ**，マリーゴールド）をすきこんでおいたので，畑の乾燥防止に役立ち，低温乾燥による『横しま症』の発生が極少なく，秀品率がさらに高まりました。

平成８年は12月下旬まで播種されました。ここ数年，この時期に使っていた品種では空洞症が発生しやすいとのことでしたが，春風太は空洞症の発生が少なく，安心して作れるとのことでした。

2)　千葉県銚子市Ｂ農家さん平成８年播種

銚子地域でも寒い地区に位置します。播種は11月中心です。トンネルの換気方法として，当地区で主流となっている『開放換気』を採用しています。

播種後のトンネル被覆は，むやみな密閉管理をするのではなく，すそを少し開けておき，生育の

写真４　露地越冬栽培。密植栽培に向き，葉の耐寒性も強い〔神奈川県三浦市〕

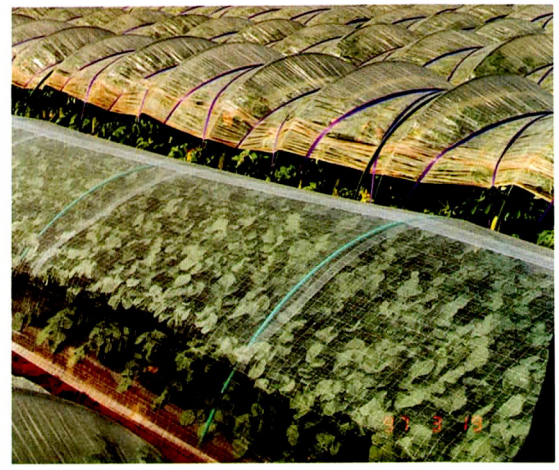

写真５　ベタガケ支柱マルチ栽培が検討されている〔神奈川県三浦市〕

徒長を防ぎます。葉の生育が小葉で，しっかりし，根の品質も良く，葉長が30 cm弱，根長は37 cm程度にまとまっていて，尻の肉付も良くきれいな総太り型に揃っていました。また，すそ換気はなるべくトンネル内の生育が４条とも揃うように調整しながら行なっております。マルチはグリーンマルチを使用して雑草を防止し，畦は20 cm程度の高畦栽培とし，作土層を十分に確保しております。

3)　神奈川県三浦市Ｃ農家さん平成８年播種

三浦半島は暖かい気候を利用しての露地栽培が最も盛んな産地です。出荷は年内～春先まで連続して行なわれますが，春風太は極晩抽性の特性を生かし，露地栽培での３月中旬～４月上中旬収穫の作型に適します。

耐寒性のある小葉なので，当地の密植栽培に適応し，かなりの収量を得ることができます。露地で地中20 cm位に硬盤がある畑では，あらかじめサブソイラーを畑の縦と横に十分かけてもらい，硬盤破砕をしっかり行なうよう注意してもらっています。また，露地栽培ゆえに播種期の設定には慎重で地域性を考慮して設定しています。

3　おわりに

『春風太』は一般地，暖地でのトンネルの早播きを主体にした越冬用の春系品種として，今後作付けが増えることが予想されます。各産地の栽培事例を参考にされ，良品生産につながれば幸いと思います。